

単 元 名	年 組 番	問
江戸幕府の成立と東アジア		

- ・1600年、(①)は(②)の戦いで勝利し、1603年に朝廷から(③)に任命され、江戸に幕府を開いた。以後戦乱のない260年余りを江戸時代という。
- ・将軍から1万石以上の領地を与えられた武士を(④)といい、(④)の領地と支配のしくみを(⑤)という。幕府は(④)を統制するために(⑥)を定めて築城・結婚を制限し、徳川家光のときに(⑦)が制度化し、1年おきに領地と江戸を往復させた。
- ・家康は、日本船の海外渡航を許可する(⑧)を発行して(⑨)貿易を行った。これにより東南アジア各地に(⑩)ができた。国内においては、キリスト教の急速な広まりをおそれて禁教令を出した。キリスト教徒への迫害や重い年貢の取り立てに反対する島原や天草の人々が、天草四郎を中心に(⑪)を起こす。以後、幕府はキリスト教の禁止を強化し、ポルトガル人の来航禁止や(⑫)人を長崎の(⑬)に移して貿易を許すなどした。これ以降、日本に来る貿易船は(⑭)と(⑮)だけになった。このように、幕府は外国との交際を制限した対外政策である(⑯)を行った。
- ・秀吉の朝鮮出兵後、国交を断絶していた朝鮮と(⑰)藩の仲立ちで国交を回復し、以後、将軍が代わるごとに(⑱)が江戸を訪れた。(⑲)を征服した薩摩藩は、将軍や国王が代わるごとに使節を江戸に送らせた。松前藩は、蝦夷地の(⑳)民族との交易を独占した。不公平な交易に不満を持った(㉑)が戦いを起こすが、鎮圧された。

・中国 ・征夷大將軍 ・武家諸法度 ・藩 ・参勤交代 ・アイヌ ・朱印状
 ・朝鮮通信使 ・日本町 ・シャクシャイン ・島原・天草の一揆 ・大名 ・鎖国
 ・オランダ ・出島 ・徳川家康 ・対馬 ・琉球王国 ・関ヶ原 ・朱印船

①	徳川家康	②	関ヶ原	③	征夷大將軍
④	大名	⑤	藩	⑥	武家諸法度
⑦	参勤交代	⑧	朱印状	⑨	朱印船
⑩	日本町	⑪	島原・天草の一揆	⑫	オランダ
⑬	出島	⑭	中国	⑮	鎖国
⑯	対馬	⑰	朝鮮通信使	⑱	琉球王国
⑲	アイヌ	⑳	シャクシャイン		

単 元 名	年 組 番	問
百姓・町人と産業の発達		

- ・全人口の80%以上を占める(①)は、村に住んで農作業を行った。村には、土地を持つ(②)と土地を持たない(③)の区別があり、(①)から庄屋などの(④)を選んで自治を行った。幕府や藩は村の自治を利用して年貢を取り立て、年貢納入や防犯のために(⑤)をつくり連帯責任を負わせた。全人口の約6%の(⑥)は、商人や職人に分かれ町に住んだ。
- ・農業では、百姓や町人による(⑦)、幕府や藩による干拓によって田畑の面積が増えた。また、農具の改良も進み、土を深く耕すことできる(⑧)が広まった。漁業では九十九里浜で大規模な(⑨)漁が行われ、肥料(干鰯)にされた。紀伊や土佐では(⑩)やくじら漁が盛んになった。鉱業では、(⑪)の金山、(⑫)・生野の銀山、足尾・別子の銅山などが開発された。
- ・江戸は(⑬)とよばれ、江戸を中心に全国にのびる(⑭)が整備された。商業都市の大阪は(⑮)とよばれ、菱垣廻船や樽廻船が出入りし、各地の大名が(⑯)をおいて年貢や特産品を売った。京都は西陣織や清水焼などの(⑰)が盛んだった。

- ・将軍のおひざもと ・百姓 ・本百姓 ・五街道 ・水呑百姓 ・蔵屋敷
- ・かつお ・町人 ・村役人 ・備中ぐわ ・いわし ・佐渡 ・新田開発
- ・石見 ・天下の台所 ・手工業 ・五人組

①	百姓	②	本百姓	③	水呑百姓
④	村役人	⑤	五人組	⑥	町人
⑦	新田開発	⑧	備中ぐわ	⑨	いわし
⑩	かつお	⑪	佐渡	⑫	石見
⑬	将軍のおひざもと	⑭	五街道	⑮	天下の台所
⑯	蔵屋敷	⑰	手工業		

単 元 名	年 組 番	問
幕府政治の改革と農村の変化		

- ・ 17 世紀後半，商品経済の発達から消費が増え，幕府は財政難になった。5 代将軍(①)は(②)・銀貨の質を落としたため，物価高になった。8 代将軍(③)は，武士に(④)と武芸をすすめ，新田開発に努めた。民衆の意見を聞く(⑤)の設置や裁判の規準となる(⑥)を定めるなどの改革を行った。これを(⑦)という。
- ・ 18 世紀後半，老中となった(⑧)は新田や鉱山の開発に努めた。また，商工業の同業者でつくる(⑨)を認めるかわりに税を納めさせた。蝦夷地の開発や長崎貿易を進めるが，一部の大商人と結びついて(⑩)が用いられるなどして政治が乱れ，ききんなどで社会不安になった。(⑧)の後の老中になった(⑪)は，政治を引きしめ，百姓の都市への(⑫)を制限した。また，旗本や御家人の借金を帳消しにし，人材育成のために(⑬)を学ばせた。この政治を(⑭)という。
- ・ 庶民の衣服の素材が麻から(⑮)にかわり綿作が始まった。また，たばこや菜種，あい，紅花などの(⑯)の栽培も広まった。(⑯)の栽培には多くの肥料や農具を購入する必要があり，農村に貨幣経済が広まった。土地を手ばなして(⑰)となる百姓が増え，一方で地主となる百姓も現れた。地主の中で，綿などを買い集める問屋，百姓に機械を貸して布を織らせて賃金を支払う(⑱)を行うものが現れた。(⑱)が発達すると，作業場に道具をそろえ，(⑰)を集めて生産させる(⑲)が発達してきた。
- ・ 幕府政治の改革が進められる中，年貢の取り立てや商品作物の安い買い上げに百姓は苦しんだ。江戸や大阪に(⑫)に行く者が増えた。悪天候で農作物の(⑳)が続き，多くの人が飢え死にする(㉑)になった。百姓たちは不正を行う役人の解任や年貢の引き下げなどを要求して(㉒)を起こし，都市の貧しい人々は米の売り惜しみをする商人をおそう(㉓)を行った。

- | | | | | | | |
|---------|--------|--------|-----------|---------|--------|-------|
| ・ 金貨 | ・ 俵約 | ・ 目安箱 | ・ 公事方御定書 | ・ 享保の改革 | ・ 株仲間 | ・ 朱子学 |
| ・ 寛政の改革 | ・ わいろ | ・ 松平定信 | ・ 工場制手工業 | ・ 徳川吉宗 | ・ 出かせぎ | |
| ・ 田沼意次 | ・ 木綿 | ・ 小作人 | ・ 問屋制家内工業 | ・ ききん | ・ 商品作物 | |
| ・ 打ちこわし | ・ 百姓一揆 | ・ 徳川綱吉 | ・ 不作 | | | |

①	徳川綱吉	②	金貨	③	徳川吉宗
④	倭約	⑤	目安箱	⑥	公事方御定書
⑦	享保の改革	⑧	田沼意次	⑨	株仲間
⑩	わいろ	⑪	松平定信	⑫	出かせぎ
⑬	朱子学	⑭	寛政の改革	⑮	木綿
⑯	商品作物	⑰	小作人	⑱	問屋制家内工業
⑲	工場制手工業	⑳	不作	㉑	ききん
㉒	百姓一揆	㉓	打ちこわし		

単 元 名	年 組 番	
江戸時代の文化と学問		問

- ・17世紀末～18世紀初め、(①)中心に栄えた豊かな町人の文化を(②)という。(③)は町人や武士のくらしを(④)とよばれる小説にえがいた。(⑤)は人形浄瑠璃の台本を書き、演劇として形を整えた(⑥)は名優が出るなど人気を集めた。(⑦)は各地を旅しながら(⑧)を芸術に高め、俵屋宗達や尾形光琳は装飾画を大成し、菱川師宣は町人の風俗をえがいて(⑨)を始めた。
- ・19世紀初め、江戸中心の町人文化である(⑩)が広まった。幕府政治の風刺や民衆生活をおもしろおかしく表現した(⑪)や(⑫)が好まれた。絵画では、錦絵で喜多川歌麿の(⑬)や葛飾北斎・歌川広重の(⑭)が喜ばれた。また、(⑮)という新聞も発行された。
- ・武士の社会では忠義や孝行を重視する(⑯)、なかでも(⑰)が広まり、各地に藩校が建てられた。民衆には読み・書き・そろばんを教える(⑱)が増えた。本居宣長は『古事記伝』を書き(⑲)を大成した。徳川吉宗がキリスト教以外の漢訳洋書を輸入許可したことで(⑳)が発達した。前野良沢・杉田玄白はオランダの人体解剖書を翻訳した(㉑)を出版した。測量技術を学んだ(㉒)は正確な日本地図をつくった。

- | | | | | | | |
|-------|------|-------|-------|------|-------|---------|
| ・狂歌 | ・儒教 | ・上方 | ・元禄文化 | ・風景画 | ・浮世草子 | ・近松門左衛門 |
| ・井原西鶴 | ・歌舞伎 | ・瓦版 | ・俳諧 | ・浮世絵 | ・朱子学 | ・国学 |
| ・化政文化 | ・美人画 | ・松尾芭蕉 | ・寺子屋 | ・蘭学 | ・解体新書 | ・伊能忠敬 |

①	上方	②	元禄文化	③	井原西鶴
④	浮世草子	⑤	近松門左衛門	⑥	歌舞伎
⑦	松尾芭蕉	⑧	俳諧	⑨	浮世絵
⑩	化政文化	⑪	狂歌（川柳）	⑫	川柳（狂歌）
⑬	美人画	⑭	風景画	⑮	瓦版
⑯	儒教	⑰	朱子学	⑱	寺子屋
⑲	国学	⑳	蘭学	㉑	解体新書
㉒	伊能忠敬				

単 元 名	年 組 番	
欧米の発展とアジアの植民地化		問

- 16 世紀のイギリスでは、国王が国民に重い税をかけ、信仰の自由を認めなかったため、議会と対立した。17 世紀中ごろ、議会派によって国王が処刑され議会による共和政治が行われた。これを(①)革命という。しかし、指導者(②)が独裁を行い王政に戻った。17 世紀末に議会がオランダから新しい国王をむかえる(③)革命を行い、国王に(④)を認めさせ、世界最初の議会政治が完成した。
- 18 世紀後半のフランスでは、独裁的な政治を行っていた国王がイギリスとの戦争のため新しい税を課そうとした。(⑤)の市民は武器を持って抵抗し、農村でも反乱がおきた。これを(⑥)という。革命派の議会は、人間の自由と平等、国民主権を主張して(⑦)を出した。この革命は代表的な(⑧)とみられている。その後、皇帝となった(⑨)によって革命の精神がヨーロッパに広がった。
- 18 世紀後半のイギリスでは、紡績機が改良され、綿花を輸入して綿織物を輸出するようになった。これらの機械の動力が、水力からワットが改良した(⑩)が動力となり、大規模の生産を行う(⑪)工業が広がった。その後、(⑩)は機関車や汽船に応用され輸送能力が高まり、製鉄・造船などの重工業や石炭工業が発達し、商工業都市が発達した。このような社会の変化を(⑫)革命という。その後、工場を経営する(⑬)に雇われて働く(⑭)は、安い賃金で長時間の労働を強いられた。(⑭)は、(⑮)を結成し、労働条件の改善などを要求する(⑯)を始めた。(⑫)革命に成功した国々は、原料や市場を求めてアジア・アフリカ・中南米に(⑰)をつくっていった。
- 北アメリカの 13 のイギリス植民地に対する政策に不満を持った人々が独立戦争を始め、1776 年にイギリスからの(⑱)を発表した。戦争に勝った植民地の人々は(⑲)をつくり、1787 年に憲法を定め、(⑳)が初代大統領に就任した。
南部のプランテーションでは(㉑)を奴隷として働かせてたばこや綿花を生産した。北部では綿織物工業や製鉄業が発達して南部と対立するようになった。北部は南部の奴隷制度を批判し、(㉒)が起こった。大統領の(㉓)が(㉔)を出し、戦争の北部の勝利で終わった。また、白人移住者の西部開拓が進み、カリフォルニアで(㉕)が発見されてゴールドラッシュが起こった。
- 17 世紀、(㉖)教徒の(㉗)帝国がインドを統一し、絵画や建築などの文化がさかえ、綿織物などの手工業が発達した。しかし、(㉘)教徒との対立で力を弱めると、イギリスの(㉙)がインドの綿花を安く買い、本国の綿織物を輸出した。そのため、インドの手工業が衰えた。イギリスへの不満が高まり、(㉙)に雇われていたインド兵が反乱を起こした。反乱を抑えたイギリスはインドを直接支配するようになった。
- 中国では、満州族の(㉚)が国を治め、鎖国をしながら広州だけで貿易を行った。イギリスは(㉛)から(㉜)を輸入したが、支払いの銀が不足したため(㉝)をインドから輸出した。(㉝)の輸出を禁止されたイギリスは戦争を起こして降伏させ、中国に不平等な(㉞)条約を結ばせた。この戦争を(㉟)という。

・アメリカ合衆国 ・東インド会社 ・清教徒(ピューリタン) ・奴隷解放宣言
 ・クロムウェル ・名誉 ・ワシントン ・黒人 ・権利の請願 ・紅茶 ・パリ
 ・南京条約 ・イスラム ・市民革命 ・ナポレオン ・工場制機械 ・清 ・産業
 ・ムガール ・資本家 ・独立宣言 ・労働者 ・人権宣言 ・労働組合
 ・リンカーン ・労働運動 ・フランス革命 ・南北戦争 ・植民地 ・金
 ・ヒンドゥー ・インド ・アヘン ・蒸気機関 ・アヘン戦争

①	清教徒(ピューリタン)	②	クロムウェル	③	名誉
④	権利の請願	⑤	パリ	⑥	フランス革命
⑦	人権宣言	⑧	市民革命	⑨	ナポレオン
⑩	蒸気機関	⑪	工場制機械	⑫	産業
⑬	資本家	⑭	労働者	⑮	労働組合
⑯	労働運動	⑰	植民地	⑱	独立宣言
⑲	アメリカ合衆国	⑳	ワシントン	㉑	黒人
㉒	南北戦争	㉓	リンカーン	㉔	奴隷解放宣言
㉕	金	㉖	イスラム	㉗	ムガール
㉘	ヒンドゥー	㉙	東インド会社	㉚	清
㉛	インド	㉜	紅茶	㉝	アヘン
㉞	南京条約	㉟	アヘン戦争		

単 元 名	年 組 番	
近世から近代へ		問

- ・18 世紀中ごろ、鎖国を続ける日本沿岸に外国船が現れると、幕府は(①)をだした。これを批判した渡辺崋山や高野長英らの蘭学者を処罰した。1830 年代、に天保のききんが起り全国各地で一揆や打ちこわしが起こった。1837 年、もと大阪町奉行所役人の(②)が貧しい人々の救済を求めて乱を起こした。老中の(③)は享保・寛政の改革を手本に(④)を行うが、江戸・大阪周辺の大名や旗本の領地を直轄地にすることに対して、大名や旗本の反対にあって改革は失敗に終わった。また、各藩も財政難になり改革を行い、砂糖の専売や琉球との貿易で利益を上げた(⑤)藩、紙・ろうの専売や下関の海運で利益を上げた(⑥)藩は改革に成功した。
- ・1853 年、(⑦)が浦和に来航して開国を要求した。幕府は、翌年に(⑧)を結び、下田と函館の 2 港を開いた。1856 年、ハリスが貿易のための条約を結ぶことを要求するが、幕府は朝廷の許可を得られなかった。1858 年、大老の(⑨)が反対意見をおさえ(⑩)を結び、神奈川(横浜)や長崎など 5 港をひらいた。この条約は、日本で法を犯した外国人をその国が裁く(⑪)を認め、自由に関税をかける(⑫)が日本にない不平等条約だった。貿易が始まると、毛織物・綿織物・武器などが輸入され、(⑬)・茶などが輸出された。
- ・外国人を打ち払う攘夷論と朝廷の権威を高めようとする尊王論が結びついて(⑭)運動に発展した。大老(⑨)は、これらを厳しく取り締まり、(⑮)などを処刑した(安政の大獄)。しかし、この弾圧に憤慨した水戸藩の浪人らに桜田門外で殺害された。長州藩は(⑯)で外国船を砲撃したが連合艦隊に攻撃され、薩摩藩は(⑰)商人殺害をおこし(⑰)に攻撃された。攘夷が無理だとさとした両藩は、(⑱)の仲立ちで(⑲)を結び、倒幕をめざした。
- ・15 代(⑳)は、天皇のもとに大名の議会をつくって自ら議長に就こうと考え、1867 年に政権を朝廷に返す(㉑)を行った。これに対し、朝廷は(㉒)を発表して天皇中心の新政府の成立を宣言した。新政府に反対する旧幕府軍は、鳥羽・伏見の戦いで敗れ、会津若松や函館で敗れて江戸幕府の政治が終わった。この戦いを(㉓)という。

- | | | | | |
|-----------|-----------|-------|---------|--------|
| ・坂本龍馬 | ・日米修好通商条約 | ・尊王攘夷 | ・異国船打払令 | ・大塩平八郎 |
| ・吉田松陰 | ・日米和親条約 | ・水野忠邦 | ・薩摩 | ・ペリー |
| ・天保の改革 | ・治外法権 | ・井伊直助 | ・関税自主権 | ・徳川慶喜 |
| ・王政復古の大号令 | ・戊辰戦争 | ・イギリス | ・薩長同盟 | ・大政奉還 |

①	異国船打払令	②	大塩平八郎	③	水野忠邦
④	天保の改革	⑤	薩摩	⑥	長州
⑦	ペリー	⑧	日米和親条約	⑨	井伊直弼
⑩	日米修好通商条約	⑪	治外法権	⑫	関税自主権
⑬	生糸	⑭	尊王攘夷	⑮	吉田松陰
⑯	下関	⑰	イギリス	⑱	坂本龍馬
⑲	薩長同盟	⑳	徳川慶喜	㉑	大政奉還
㉒	王政復古の大号令	㉓	戊辰戦争		